

祇園小学校 校長だより（第53号） 令和元年度第18号 令和元年12月17日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

よいお年をお迎え下さい

今年の5月からスタートした「令和元年」も、あとわずかです。干支は、亥（いのしし）年から子（ねずみ）年にバトンタッチです。年末・年始の行事を子どもたちにも体験させるとともに、新たな年への希望を抱かせたいものです。

お金の大切さ、お金の使い方

お年玉など、子どもたちがお金を手にする機会も増えると思います。まだまだ未成年であり、保護者の扶養下にある子どもたちの金銭管理について、保護者の皆様のご指導をお願いいたします。お金の大切さやお金の使い方についても、併せてご指導ください。

さようなら、佐世保市交通公園

昭和47年8月の開園以来、ゴーカートを中心とした交通安全教育など、広く市民の皆様に親しまれてきた交通公園が、本年12月28日をもって閉園となります。今後は、交通安全教育シミュレーター機器を中心とした事業が行われるそうです。校区内（祇園町）の施設として、今後も利用していただければ幸いです。

祇園歴史の旅（その53）「佐世保水道史」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「私たちの家では蛇口をひねれば水が出ます。これは、きれいに浄化された水ですが、実は、安心して飲める水が普通に手に入るようになったのは、わずか100年ほど前のことです。江戸時代は井戸や川の水を飲み水に使っていました。それは明治時代になっても変わりませんでした。ところが、軍港ができて、たくさんの人が暮らすようになると、水不足と、汚染された水による伝染病が、深刻な問題となりました。

海軍でも、最初は井戸水を使おうとしていましたが、水質が悪く、水量も少なかったため、1889年（明治22）に弓張岳の炭鉱の湧き水を利用して、郭公藪（かっこうやぶ）水源地と矢岳貯水所を造りました。これは、日本で3番目に古い近代水道です。さらに、1901年（明治34）に岡本水源地と矢岳浄水場が完成してからは、その一部を市民が使うようになりました。それでも水不足は解消できず、ようやく1908年（明治41）に海軍の山ノ田貯水池と浄水場が完成すると、海軍から水を分けてもらい、水道管を引いて市民も安全な水を手軽に使うことができるようになりました。しかし、その後も人口が増え続け、海軍からの『もらい水』ではまかないきれなくなり、市でも浄水場を造ることになりました。この工事は1926年（大正15）に完成し、海軍からのもらい水でスタートした佐世保市水道は、ようやく独自の浄水場を持つことができたのです。

山ノ田浄水場には、明治・大正・昭和の濾過池、配水池があり、2013年（平成25）5月まで多くの施設が現役として使われていました。現在では濾過池の一部や砂置場、水質検査室など、明治、大正期の施設が残されており、佐世保市水道の歴史を物語る貴重な近代化遺産です。」

次回は、「水道の父・吉村長策、ペストで焼かれた町」と題して、水道施設に携わった吉村長策とペストの発生により焼き払われた町などをご紹介します…。